



故 熊澤 淨一 先生

<略歴>

-
- 昭和 34 年 3 月 九州大学医学部医学科卒業
昭和 35 年 3 月 九州大学医学部附属病院にて実施修練終了, 医籍登録
昭和 39 年 3 月 九州大学医学研究科博士課程修了, 医学博士
昭和 39 年 4 月 九州大学医学部附属病院 副手
昭和 39 年 8 月 九州大学医学部附属病院 助手
昭和 40 年 7 月 厚生省に出向 (国立福岡中央病院・厚生技官)
昭和 41 年 8 月 九州大学医学部附属病院 助手
昭和 44 年 7 月 米国ハーバード医科大学・感染症部門に留学 (1 年間)
昭和 46 年 6 月 九州大学医学部附属病院 助手講師
昭和 48 年 4 月 九州大学医学部 講師
昭和 52 年 4 月 九州大学医学部 助教授
昭和 55 年 4 月 佐賀医科大学外科学講座泌尿器科部門 教授
昭和 59 年 2 月 九州大学医学部泌尿器科学講座 教授
昭和 62 年 4 月 九州大学医学部皮膚科学講座分担 (7 ヶ月間)
平成 2 年 4 月 九州大学医学部附属病院手術部 部長 (5 年間)
平成 4 年 4 月 九州大学医学部麻酔・蘇生学講座分担 (6 ヶ月間)
平成 7 年 1 月 九州大学医学部附属病院 病院長 (2 期 2 年 9 ヶ月間)
平成 8 年 12 月 九州大学医学部皮膚科学講座分担 (10 ヶ月間)
平成 9 年 10 月 国立病院九州医療センター病院長に転任 (*平成 12 年 3 月まで)
九州大学医学部泌尿器科学講座教授を併任
平成 10 年 3 月 九州大学を定年により退官
平成 10 年 5 月 九州大学名誉教授の称号授与
- 平成 12 年 4 月 北九州市立医療センター病院長
平成 16 年 4 月 北九州市保険福祉局医務監
平成 19 年 4 月 九州大学医学部同窓会 会長 (*平成 24 年 3 月まで)
平成 26 年 4 月 福岡県社会保険医療協会理事
国際ロータリー第 2700 地区ガバナー

熊澤浄一先生を偲んで

熊澤浄一先生は、ご闘病中でありました肝臓癌のため、平成31年3月19日、お亡くなりになりました。先生は、長年多くの学会で指導的な役割を果たしてこられました。特に、日本化学療法学会との繋がりは深いものでした。

熊澤先生は、昭和34年に九州大学医学部を卒業され、泌尿器科学教室へ入局されました。大学院博士課程を修了され、泌尿器科医として研鑽を積まれた後、昭和44年には、米国ハーバード大学 Channing Laboratory へ留学されました。昭和55年に佐賀医科大学の初代教授として、泌尿器科学教室を作られ、昭和59年九州大学医学部泌尿器科学教室へ教授として、お帰りになりました。教室を主宰されると同時に、九州大学医学部附属病院手術部長や病院長などを歴任されました。九州大学退職直前より、国立病院九州医療センター病院長を併任された後、専任となられ、さらに、北九州市立医療センターの病院長を歴任され、平成16年からは、北九州市保健福祉局医務監を15年間お務めになりました。先生は、九州大学、佐賀医科大学で教授として教室を主宰され、多くの医局員を育てられました。各医局員は、いくつかの大学の教授となり、その他の医局員も各病・医院、研究所、その他で頑張っています。

熊澤先生の日本化学療法学会との関りは強く、学会には昭和35年に入会され、評議員、理事を務められ、平成9年～14年には、理事長をお務め頂きました。その際、日本化学療法学会の社団法人化に尽力され、平成13年8月に社団法人となっています。その間、監督官庁との折衝や詳細な会則の変更などに、柴孝也先生や渡邊浩二先生、事務局の方々などにご苦労されました。昭和58年には佐賀で西日本支部総会を、平成6年には福岡で総会を主宰されました。また、平成7年～9年には、西日本支部長もお務め頂きました。また、国際化学療法学会の副理事長と西太平洋化学療法学会の初代理事長をお務めになり、平成18年には第10回西太平洋化学療法学会を福岡で開催されました。

先生の、ご研究は尿路感染症、性感染症など泌尿器科領域の感染症を中心になされ、特に、尿路感染症の診断と治療とその基礎的研究にたくさんの業績を上げられています。ハーバード大学留学中には、尿路分離菌数と尿路感染症の関連を主に研究され、その後、尿路感染症における嫌気性菌や実験腎盂腎炎での抗菌薬治療モデルの作成などもされています。さらに、抗菌薬の開発に、深く関与され、数々の臨床治験を指導され、多くの抗菌薬を世に送り出しておられます。先生は、若い時から映画に興味を持っておられ、米国留学中に撮影された、かのエリザベス・テラーとのツーショット写真を大事にしておられ、時折、懐かしそうにお見せ頂いたのが、印象に残っています。

大学退職後は、二つの病院の病院長や北九州市の医務監などをご歴任された傍ら、九州大学医学部同窓会会長や国際ロータリークラブのガバナーをお務めでした。その間、福岡医療NGOを立ち上げられ、開発途上国への医療活動の援助を行われていました。また、福岡法医学研究会を立ち上げられ、法医学者、臨床医、弁護士などの情報交換の場を作られました。

熊澤先生は、優しいお人柄で人を怒ったりされず、常に温厚に他人と接しておられました。また、話術に大変富んでおられ、一流の例えや言い回しで、ぐっと人の心を捉えるのが上手な先生でした。先生のご挨拶や司会などは、超一流であり、多くの人の心に残っているものと思います。

私は、熊澤先生に、長年にわたりご指導を頂き、最も長期にわたって御傍に仕えさせて頂いたと自負しています。昭和59年から、熊澤先生のご命令で九州大学泌尿器科学教室の感染症研究グループのリーダーとして研究させて頂いたのは、私の感染症研究の始まりとなりました。熊澤先生は細かいことは一切指示されず、自由に研究させていただきました。ただ一つのご命令は、各種感染症関係の学会・研究会には、必ず演題を出すようにとのことでした。何人かの仲間と一生懸命研究し、何とか先生のご命令に従うべく、努力していました。しかし、それが困難な時もあり、先生にご相談すると「うん、困ったね!」と言われるだけで、ご叱責を被ることはありませんでした。

私は、平成9年に産業医科大学へ赴任しましたが、熊澤先生も平成12年には、北九州市立医療センターの病院長にご就任になり、私にとって二度目の幸運でした。多くの感染症研究会やNPO法人などの立ち上げにご助力頂き、北九州市を中心に感染症・化学療法の勉強会や学会などで、常にご一緒させていただきました。また、海外を含めた学会や研究会、その他、多くの会議、懇親会、食事会などでは、ずっとご一緒させて頂き、そのお姿を拝見し、勉強させて頂きました。先生の親切で温かい心使いや人付き合い、超一流のご挨拶、常に絶えない笑顔などなど、傍でお仕えしながら、真似しようとしても不可能なことばかりでした。私が産業医大に赴任しました折、教授になって良かったことは何かと聞かれた時、「自分でスケジュールを決めることができるようになったこと」などと、冗談で答えていたことを思い出します。九州大学ご在職中の熊澤先生は、超多忙でしたので、急な予定変更はしばしばだったようです。「私が行けなくなったので、代わりに出席してほしい」とのご指示が時々きました。従って、私のスケジュールの決定が難しかったのを覚えています。熊澤先生の後を継いで、北九州市の医務監を現在務めています。「私は80歳まで15年間務めたので、君も80歳までやりなさい」とのご命令に従うべく、頑張っております。

熊澤先生との思い出は尽きません。熊澤先生の温かいお心に包まれて長年過ごせてこられたことに心より感謝しつつ、稿を終えさせていただきます。熊澤先生のご冥福を心よりお祈り致します。

産業医科大学名誉教授
北九州市保健福祉局医務監
松本哲朗